

平成 3 0 事業年度

公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果

令和元年 8 月

公立大学法人福知山公立大学評価委員会

目次

I 平成30事業年度の業務実績評価について..... 1

II 評価結果

1 全体評価..... 4

2 大項目別評価..... 6

《公立大学法人福知山公立大学評価委員会委員》

区分	職 名 等	氏 名
委員長	京都府立大学名誉教授 龍谷大学政策学研究科教授	あおやま こうぞう 青山 公三
委員長職務代理	大阪府立大学 事務局 大学運営部長	おおくぼ まさあき 大久保 正明
委員	社会保険労務士・行政書士 菊田学美事務所	きくた まなみ 菊田 学美
委員	学校法人共栄学園理事長	なかい ひろゆき 中井 博之
委員	細見税務会計事務所所長	ほそみ ひとし 細見 均

I 平成30事業年度の業務実績評価について

公立大学法人福知山公立大学評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2第3項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）の平成30事業年度における業務の実績について、「公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針」及び「公立大学法人福知山公立大学に関する年度評価実施要領」により評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- （1）評価は、法人の教育研究の特性や運営の自主性、自立性に配慮して行うものとする。
- （2）評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の組織・業務運営等に関して総合的に行い、改善すべき点等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資するものとする。
- （3）評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- （4）評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取り組み状況やその成果をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすものとする。
- （5）評価方法については、必要に応じて工夫・改善を行うものとする。

2 評価方法

- （1）評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- （2）評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行った。
- （3）「項目別評価」は、「小項目別評価」及び「大項目別評価」により行った。

小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況又は実施状況を確認し、評価を行った。

評価	進捗状況（実施状況）
5	年度計画を大幅に上回って実施している（特に優れる若しくは顕著な成果がある）
4	年度計画を上回って実施している（上回る若しくは十分な実施状況）
3	年度計画を概ね実施している（実施）
2	年度計画を十分に実施できていない（下回る若しくは実施が不十分）
1	年度計画を大幅に下回っている（特に劣る若しくは実施していない）

大項目別評価

小項目別評価の結果を踏まえ、6つの大項目（8区分）ごとに、中期計画の進捗状況について評価を行った。

（１）教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
①教育の質の向上に関する目標を達成するための措置
②研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
③地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置
（２）業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
（３）財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
（４）自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置
（５）その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
（６）福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

評価	評価基準	判断の目安
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が4.3以上であり、かつ、業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組みがあると評価委員会が認める場合。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上4.2以下であり、かつ、評価委員会が「A」と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合。
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が2.7以上3.4以下であり、かつ、評価委員会が「B」相当と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合。
C	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上2.6以下であり、かつ、評価委員会が「C」相当と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合。
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.8以下であり、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が認める場合。

全 体 評 価

「項目別評価」の結果を踏まえ、法人の中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。
C	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

Ⅱ 評価結果

1 全体評価

(1) 評価結果

評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

(2) 総評

法人は、教育のまち福知山における「知の拠点」として、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）に基づき、福知山公立大学を設置し、及び管理することにより、総合的な知識と専門的な学術を深く教授研究するとともに、地域協働型教育研究を積極的に展開することにより、地域に根ざし、世界を視野に活躍できる高度な知識及び技能を有する人材を育成し、北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することを目的としている。

第1期中期目標期間3年目の事業年度となる平成30年度の業務実績の特筆すべき事項として、

- ①「知の拠点」整備構想並びに中期目標に定める学部学科編成の最適化及び入学定員200名の実現をするために、令和2年度の情報学部の新設に向けて学外有識者を含んだ新学部設置準備委員会を設置し、アドミッションポリシー等学部理念やカリキュラムの策定、学部長候補を含めた教員の確保、1号館・3号館の改修設計などを実施し、文部科学省に設置認可申請書を提出したこと。
 - ②昨年度から引き続き高校訪問、入試説明会などの学生募集活動を精力的に取り組んだ結果、志願者は665人、確定志願倍率は5.5倍となり、国公立大学の平均4.7倍を上回り、入学定員120人に対して132人の入学者を確保したこと。
 - ③京都府、京都府北部地域4市2町（舞鶴市・綾部市・京丹後市・宮津市・伊根町・与謝野町）及び兵庫県北部地域2市（朝来市・丹波市）と包括連携協定を締結し、地域連携・地域協働の実施体制を築いたこと。
 - ④福知山市の中心市街地の新町商店街に「まちかどキャンパス吹風舎」を設置し、市民に見える大学づくりに取り組まれているとともに宮津市では「宮津わかもの会議」を実施し、福知山市、朝来市及び丹波市の3市と高大連携研究会を開催するなど多彩な地域連携・地域協働事業を実施し、地域協働の質の向上に精力的に取り組んだこと。
 - ⑤ファカルティ・ディベロップメント（FD）を20回、スタッフ・ディベロップメント（SD）を6回実施されるなど、年度計画を上回る回数を実施し、教職員の連携を図るとともに教育の質の向上及び人材育成に取り組んだこと。
- などが挙げられる。

以上のような状況や、6つの大項目（8区分）別評価結果のいずれもが「B」（中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。）となっている状況を総合的に勘案し、全体評価は、「B」（中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。）と評価する。

しかしながら、全国から志願者を集め、入学定員は充足しているものの、北近畿地域からの志願者及び入学者が少ないという課題が依然として残っている。「地域で学び、地域で働く」循環システムを構築することが、法人の責務である北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することにつながるものである。ついては当地域の高校へのヒアリング結果を分析し、学生募集活動に創意工夫を凝らすとともに、当地域の高校生が入学したいと思える大学となるよう、より一層大学の魅力作りに取り組んでいただきたい。

教学情報システムの導入が当初の予定より遅れたことにより、学生の教育に不可欠なポートフォリオの導入、教務システムの稼働や学生用Webサイトにアルバイト情報の提供などができなかったことは大きな反省材料であり、業務の進捗管理を適切に行い、学生の修学支援体制を充実されたい。

外部資金については、引き続き多様な外部資金を確保していただくとともに科学研究費助成事業の採択率の向上、北近畿地域内の自治体や民間企業等からの委託事業・共同事業の獲得を目指していただきたい。また、一層の成果を出すためにも努力目標ではなく、数値目標を設定いただくよう検討いただきたい。

現在取り組まれている各種地域連携・地域協働事業に加え、次年度から学部の新設、学生数の増加に伴う業務量の増加が見込まれる。依然として厳しい財政状況であることは理解するが、教職員の負担が増えることで学生の学修状況に影響を及ぼすことを避けるため、教職員に過度な負担とならないよう、適正な労務管理を行われたい。

【大項目別評価結果】						
大項目	評価結果	S	A	B	C	D
		中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である	中期計画の達成に向け順調に進捗している	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している	中期計画の達成のためには進捗が遅れている	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	B			○		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	B			○		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置	B			○		
第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	B			○		
第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	B			○		
第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	B			○		
第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	B			○		
第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項	B			○		

2 大項目別評価

第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

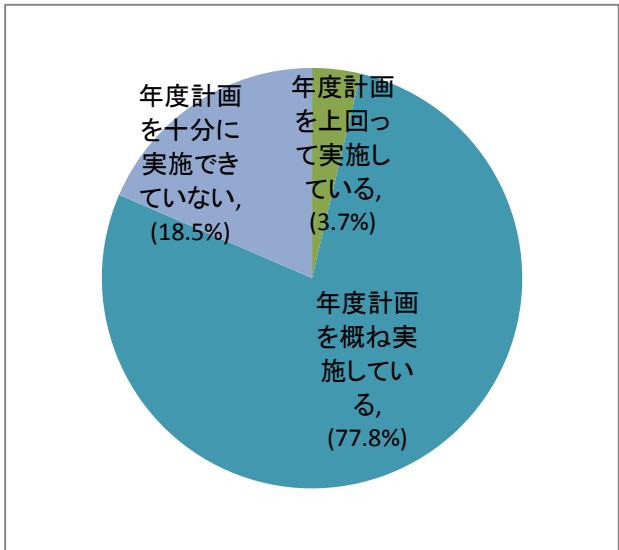
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
2.9

(1) 評価理由

小項目別評価において、27項目中1項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、21項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となった。5項目が「2」（年度計画を十分に実施できていない）という評価結果であるものの、評定平均値が2.9となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	27	0	1	21	5	0
	構成比(%)	(0.0%)	(3.7%)	(77.8%)	(18.5%)	(0.0%)



(2) 概況

（評価できる点等）

- 課題解決型インターンシップを積極的に実施して参加学生数と参加率で高い実績が出ており、教育の改善に寄与すると期待できるファカルティ・ディベロップメント（FD）を年間20回実施した。

（課題となる点等）

- 開学当初から課題が山積の中で良く努力され一定の成果が出ていると思うが、一層の向上には教育内容・手法の充実と改善に関わる自己点検・評価委員会の取り組みが重要である。同委員会の役割を明確にして、教育内容や教育手法の充実と改善業務を定期的に点検し、適切な助言、指導、指示を行い、着実に成果を出していく必要がある。
- 北近畿の入学者を増加させるための創意工夫について、各方面からの知恵を借り、より一層努力されることを切に望む。
- 教学情報システムの導入が遅れたことによって、ポートフォリオや教学システムの稼働などができなかったこと。

2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

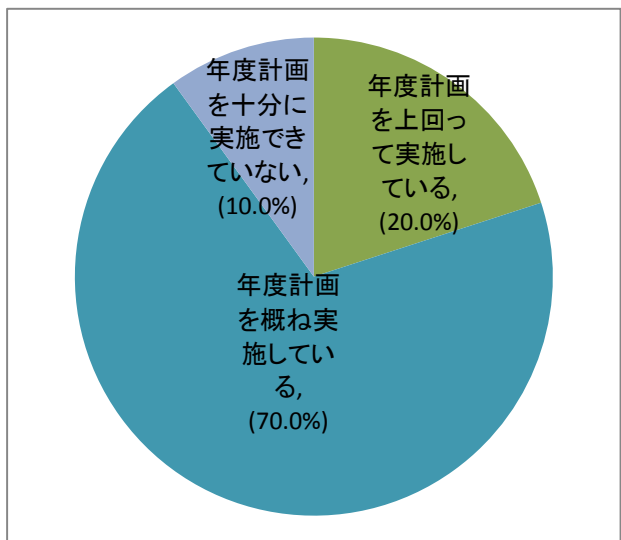
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.1

(1) 評価理由

小項目別評価において、10項目中2項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、7項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となった。1項目が「2」（年度計画を十分に実施できていない）という評価結果であるものの、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	10	0	2	7	1	0
	構成比(%)	(0.0%)	(20.0%)	(70.0%)	(10.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 福知山公立大学地域協働型教育研究会を発足されるなど北近畿地域の課題研究に積極的に取り組まれている。
- 様々な課題のある中で地域や組織、団体との連携・協力を推進し、地域協働型教育研究を積極的に展開しようとする姿勢は評価できる。

(課題となる点等)

- 研究に係る外部資金を積極的に獲得する手法を全学体制で取り組んでいただきたい。
- 外部資金の獲得に関する取り組みを推進するため、数値目標の設定を検討いただきたい。

3 地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置

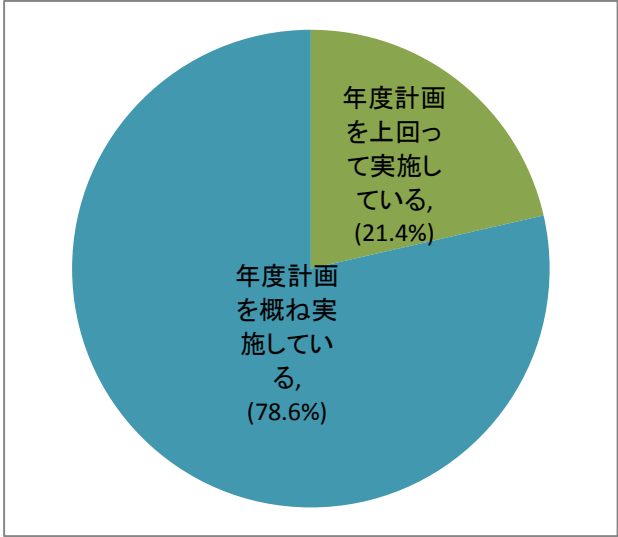
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.2

(1) 評価理由

小項目別評価において、14項目中3項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、11項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.2となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	14	0	3	11	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(21.4%)	(78.6%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 北近畿地域連携センターの設立、北近畿地域連携会議の設立、まちかどキャンパスの設置に加え、京都府及び京都府兵庫県6市2町との包括連携協定が結ばれて地域協働を進める土台が整った。
- 北近畿の自治体との連携やまちかどキャンパスの有効活用等、地域連携・地域協働の活動を積極的に取り組まれている。

(課題となる点等)

- 地域協働型の研究活動と教育活動を推し進めることで、学生が北近畿地域の地方公共団体、各種団体、世界・日本・地域で活躍する企業等に深い関心を持ち、ひいては持続可能な地域社会の形成と地方創生に彼らがつながるような仕組みを充実していただきたい。
- 現在の地域連携・地域協働の研究や活動が、地域の活性化へ結実していくことが市民に実感できることを期待する。

第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

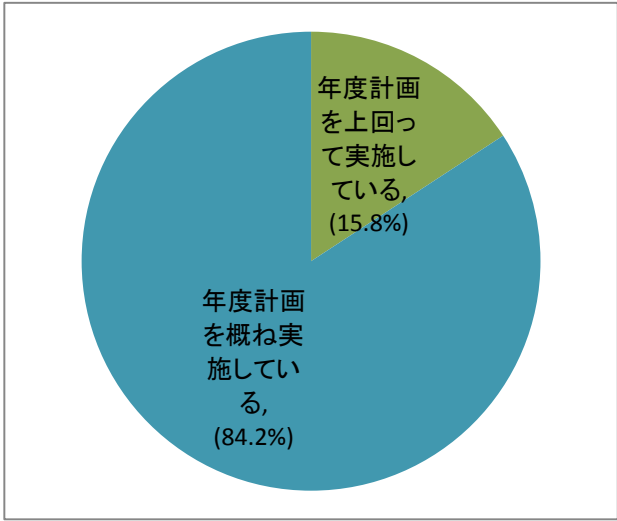
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.2

(1) 評価理由

小項目別評価において、19項目中3項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、16項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.2となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	19	0	3	16	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(15.8%)	(84.2%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 広報については、積極的に行われており、大学の活動が市民の目に留まる機会が多い。
- 教職員の養成に関わり、年度計画をはるかに上回るファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施された。

(課題となる点等)

- 大学経営の改善や大学運営の効率化に関わる重要課題を明らかにし、有効な手立てを考え、適切に対処するという地道な取り組みが良質な大学を作る。その観点でいうと、市議会、評価委員会、市民、企業などの外部意見の中で、大学経営の改善や大学運営の効率化に関わる重要課題と判断したものについては、次年度の年度計画に挙げて業務実績報告をされた方がよい。

第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

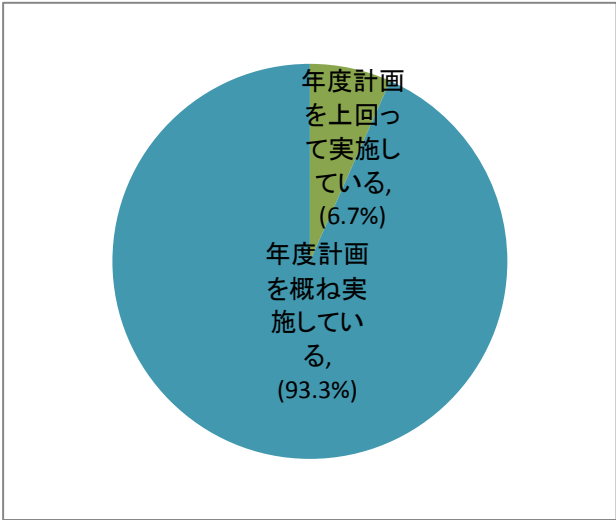
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.1

(1)評価理由

小項目別評価において、15項目中1項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、14項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	15	0	1	14	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(6.7%)	(93.3%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- 安定的な経営確保のために新学部の情報学部の設置に向けて、学外有識者を含む新学部設置準備委員会と学内に新学部設置準備室を発足させ、情報学部の学部理念やカリキュラムを策定し、校舎の改修設計を行い、2019年3月に設置認可申請書を文部科学省に提出したこと。

(課題となる点等)

- 北近畿の志願者増は、従来からの課題であり、積極的活動を真に期待していると同時に、業務実績報告でもそのことが理解できる記載をしていただきたい。
- 外部資金獲得の取り組み強化に向けて取り組んでいただきたい。

第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置

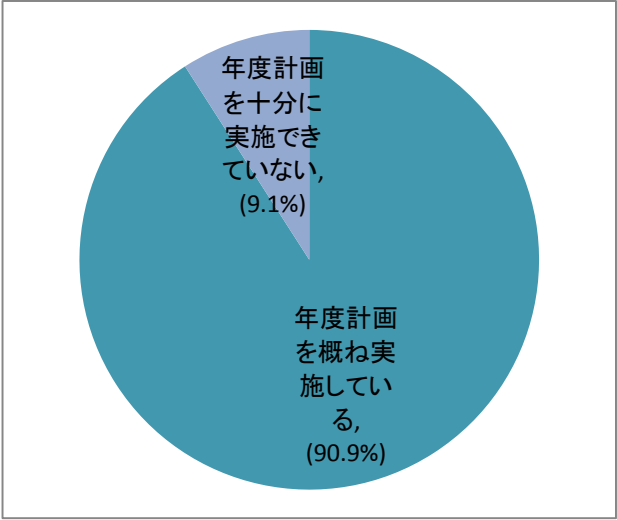
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
2.9

(1) 評価理由

小項目別評価において、11項目中10項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となった。1項目が「2」（年度計画を十分に実施できていない）という評価結果であるものの、評定平均値が2.9となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	11	0	0	10	1	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(90.9%)	(9.1%)	(0.0%)



(2) 概況

- (評価できる点等)
- 特記事項なし

- (課題となる点等)
- 外部資金の獲得は、研究の質の向上だけでなく財務内容の改善にも関連しており重要であるため、一層の成果を出すには努力目標ではなく数値目標の設定を検討いただきたい。

第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

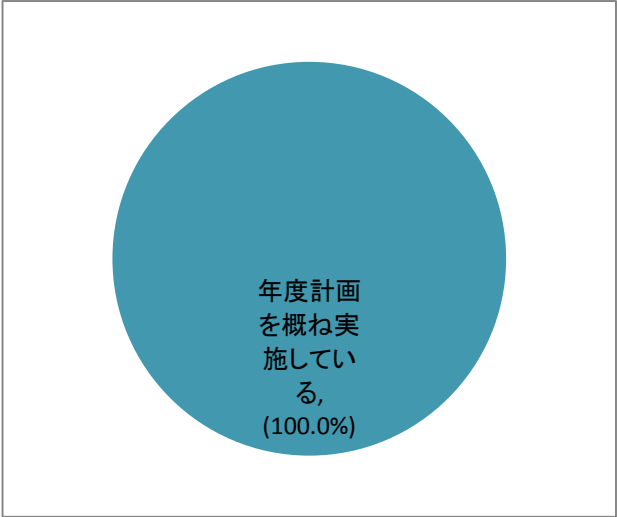
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、8項目中8項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	8	0	0	8	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

特記事項なし。

第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

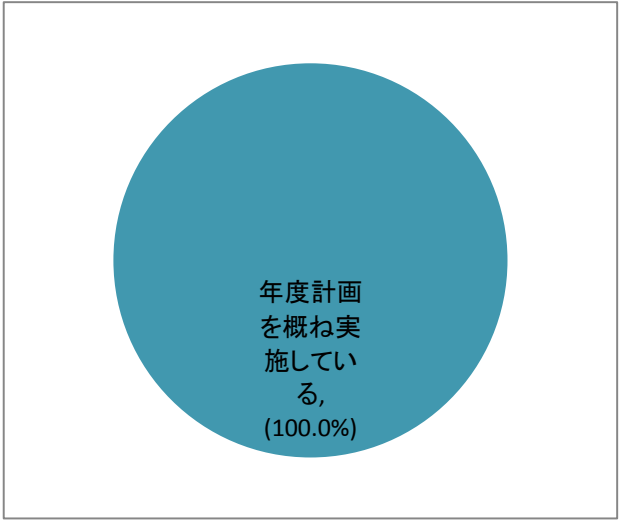
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、4項目中4項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	4	0	0	4	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- インフラ長寿化計画の対応に向けて、長期修繕計画を作成する準備を進めたこと。

(課題となる点等)

- 特記事項なし。